

被爆の実相と原爆被害からの復興

1 被爆前の広島

広島は軍都、学都として発展し、人口規模で全国7番目に大きい都市でした。現在平和記念公園のある地区は市内有数の繁華街として栄えた街で、そこには人々の生活がありました。原爆が炸裂した時、広島には35万人前後の人々がいたと考えられています。多くの成人男子は出兵していたため、その約9割は老人、女性、子供たちでした。



広島市公文書館提供

宇品軍用棧橋



広島市公文書館提供

広島高等師範学校



ナック映像センター提供

産業奨励館と広島市内中心部



ナック映像センター提供

広島市内中心部（後の平和記念公園地区周辺）

広島県産業奨励館（後の原爆ドーム）

被爆前の中島地区（後の平和記念公園）



原爆の投下目標になった相生橋

撮影／松本若次

2 原爆による被害

(1) 原爆の投下



広島平和記念資料館提供 撮影/米軍

1945年8月6日午前8時15分、広島市は人類史上初めて原子爆弾による攻撃を受けました。

上空9,600メートルから投下された原子爆弾は、原爆ドームから南東約150メートル、高度600メートルの地点で爆発しました。

このきのこ雲の下では、罪もない無数の市民が命を奪われ、負傷し、逃げ惑い、生死の境をさまよっていました。

(2) 被害地域

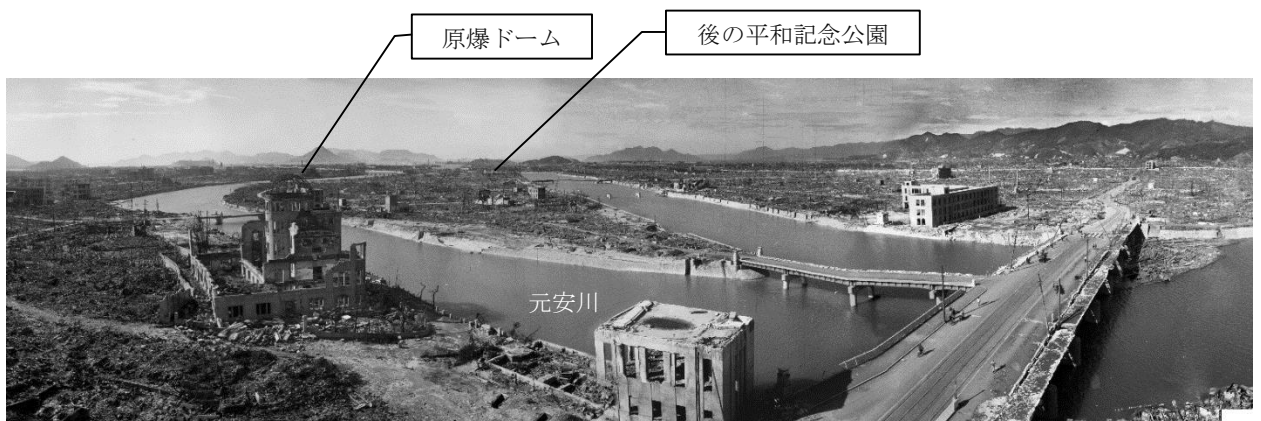


広島市所蔵

原子爆弾による熱線・爆風、火災により、爆心地から半径2km以内の木造家屋は全壊又は全焼し、1945年の年末までに、約35万人の住民のうち約14万人もの方が亡くなりました。

(3) 被爆後の街

爆心地付近の被爆直後の様子です。当時この地域は広島を中心繁華街でした。



広島平和記念資料館提供 撮影/林重男

(4) 人体への被害

爆心地周辺の地表面の温度は摂氏 3,000～4,000 度にも達し、多数の市民がひどい熱傷を負いました。また、被爆直後から短期間に現れた熱線、爆風や放射線による一連の症状を急性障害といい、さまざまな症状を示しました。



広島平和記念資料館提供 撮影／川原四儀
救護所に収容された負傷者



広島平和記念資料館提供 撮影／尾藤政美
熱線による熱傷



広島平和記念資料館提供 撮影／木村権一
放射線による被害

爆心地から 1 キロメートルの地点で被爆したこの兵士は、放射線により脱毛、出血、皮膚の出血斑点などを引き起こし、約 1 か月後に死亡しました。放射線は、急性障害だけでなく、被爆後 5、6 年が経過した頃から白血病、10 年後には甲状腺がん、その後は乳がん、肺がんなど、様々な健康不安を引き起こしました。

辛うじて生き残った人も、放射線の影響による健康不安に、被爆 70 年の今もなお苦しみ続けています。



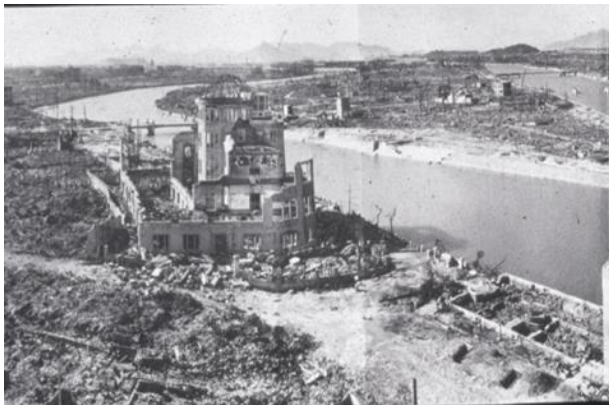
広島平和記念資料館所蔵 絵／古川正一
救護所に収容された負傷者（被爆者が描いた絵）

(5) 建物への被害



広島平和記念資料館提供 撮影／林重男
爆心地から 210m の広島瓦斯本社

原子爆弾の爆発の瞬間、爆発点は数十万気圧という超高圧となり、まわりの空気が急激に膨張して衝撃波が発生し、その後を追って強烈な爆風が吹き抜けました。衝撃波は、爆発の約 10 秒後には約 3.7 キロメートル先まで達し、その圧力は爆心地で 1 平方メートルあたり 35 トン、最大風速は秒速 440 メートルに達するという強大なものでした。



広島平和記念資料館提供 撮影／林重男
広島県産業奨励館の残骸（原爆ドーム）



広島平和記念資料館提供 撮影／林重男
後の平和記念公園地区周辺

(6) 樹木への被害

衝撃波と爆風、高熱火災による市街地の壊滅的な破壊により、「75 年は草木も生えぬ」と言われました。



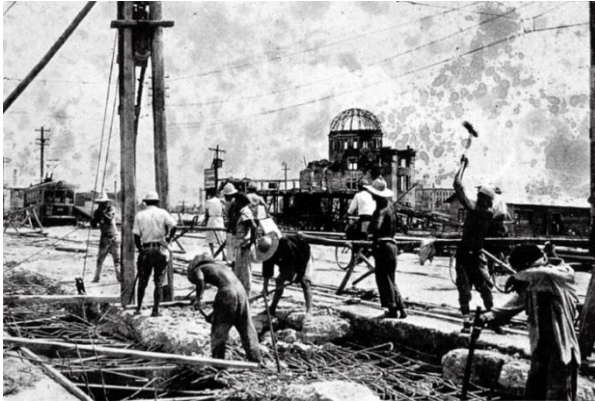
広島平和記念資料館提供 撮影／林重男
爆心地から 250m の柳



広島平和記念資料館提供 撮影／尾木正己
爆心地から 370m の大クスノキ

3 被爆からの復興

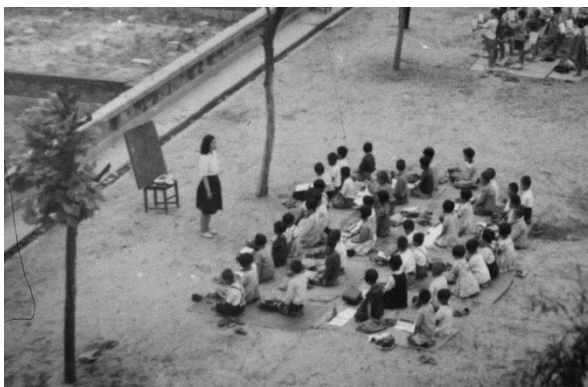
(1) 市民による復興の努力



撮影／岸本吉太 提供／岸本坦
橋の復旧工事をしている様子

人も街も焼け焦げた焦土の中、放射能が多く残留していたことも知らず、最悪の環境の中でも、市民は、郷土愛と自分たちの住んでいるまちを良くしようという強い意思を持って、街を再生する努力を続けました。市内の路面電車は、道路の崩壊等により全て止まっていたが、原爆投下の3日後に一部復旧しました。

水道は、被爆した職員が浄水場に走り、原爆投下の日も途切れることなく水を送り続けました。



広島市公文書館提供
屋外での授業風景

学校も破壊されたため、しばらくの間は、校庭にむしろを敷いて授業を受けていました。

(2) 復興への希望



朝日新聞社提供
焦土に咲いたカンナの花(1945年9月 爆心地から250m)

1945年秋、焦土の広島に新しい芽が息吹きました。焼け跡に咲く花は、復興に取り組む人びとに生きる勇気と希望を与えました。

(3) 国内外からの支援



広島市公文書館提供
平和大通りへの植樹風景

国内外から多くの人が、国ではなく、市民レベルで広島市を助けようと努力してくれました。

広島から海外に移住した人々から多くの義援金が送られ、「平和大通り」という新しい幹線道路には、国内外から寄せられた6,000本以上の樹木が植えられました。

4 現在の状況

これは現在の広島市です。現在の人口は約 118 万人。写真右の平和大通り沿いには植えられた樹木が今青々と茂っています。焦土からの復興は、郷土を愛する市民の努力、国内外の多くの方々からの援助などにより成し遂げられました。



原爆ドームと平和記念公園



平和大通り

5 被爆者の思いと碑文の紹介

70 年前、筆舌に尽くし難い原爆の非人道性を、身を以て体験した被爆者は、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」と訴えています。これに対する我々の回答が、原爆死没者慰霊碑の碑文に刻まれている「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という言葉です。国籍、民族、思想、加害者や被害者などの違いを超えて、戦争や核兵器の使用という「過ち」を繰返さず、暴力ではなく対話と信頼により、明るい未来を切り拓いていくことを誓う言葉です。



原爆死没者慰霊碑



原爆死没者慰霊碑の碑文

「2020 年までの核兵器廃絶を！」